

「おと」をテーマに作品募集『世界こどもハイクコンテスト』

ハイクがつなぐ世界の子どもの輪

第18回大会には47の国と地域から過去最高となる
2万1,538点の応募がありました。

フィリピン



モンゴル



インドネシア



タイ



キューバ



スペイン



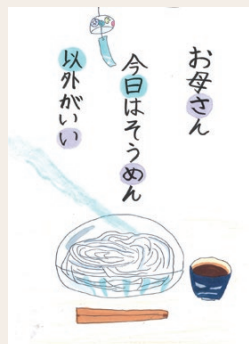
オランダ



アメリカ

第18回日本語大会
大賞作品より

中村健汰さん(徳島/10歳)



許友紀奈さん(香港/13歳)



荒井悠里さん(東京/7歳)

第19回
日本語大会の作品を
6月から募集します

15歳以下のお子さまを対象に、「おと」をテーマにした自作の絵とハイク(三行詩)を募集します。詳細はJAL財団「世界こどもハイクコンテスト」特設ページをご覧ください。



かれる今年だからこそ、耳から聞こえる音だけでなく、心や目で聴く音の世界にも意識を向け、「五感で聴く」感覚を味わってほしいという思いを込めて、このテーマを設定しました。

まずは6月に日本語大会の募集を開始し、続いて世界の国と地域で母語大会を実施。前回同様、日本語大会と各地域大会の大賞の中から特別表彰作品を選定予定です。たくさんのご応募をお待ちしています。

日本で生まれ、世界中で親しまれる珠玉の芸術となったハイク。JAL財団とJALグループは、世界中の子どもたちによるハイク創作の喜びが、これからの国際交流の一助となることを願っています。

JAL財団
Instagram

日本および全世界に暮らす15歳以下の子どもたちを対象に、絵とハイク(三行詩)を1枚の紙に収めた作品を募集する『世界こどもハイクコンテスト』。ハイク創作の楽しさを広めることで子どもたちの感性を養い、ハイクを生み出した日本文化や現代の日本への理解を深め、相互理解と国際交流を促進することを目的に、公益財団法人JAL財団が主催しています。

1964年に日本航空が始めたプロジェクトを90年にJAL財団(当時は日航財団)が引き継ぎ、世界こどもハイクコンテスト第1回大会を開催してから現在に至るまで、事務局に寄せられた作品は約76万点にのぼります。

ハイクコンテストには毎回テーマがあります。これまで、まち、おまつり、スポーツ、いきもの、かぞく……というように、世界中の子どもたちが共感して想像を膨らませ、生き生きとした絵とハイクを生み出せるような言葉を題材にしてきました。まもなく募集を開始する第19回のテーマは「おと」。

「東京2025デフリンピック」が開

今回のテーマに該当する目標



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

2015年9月、全国連加盟国(193カ国)により「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が採択されました。2030年までに、貧困や気候変動、平和的社会などの17の目標を達成すべく、JALグループも社会の課題解決に取り組んでいきます。